

株式会社日東商会

環境経営レポート

Eco Action 21 2023年度

(2023年6月～2024年5月)

2024年9月14日作成

目次 Table of Contents

環境方針	1
会社の概要及び実施体制	2
当年度及び中期の環境経営目標	3
当年度の環境経営計画	4
環境経営目標の実績	5
環境経営取組結果の評価	6
取組前(2005年)から取組後(2006年-2023年)の実績表	7
二酸化炭素排出量推移表 A	
二酸化炭素排出量推移表 B	
二酸化炭素排出量推移表 C	
次年度の取組と課題	8
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	9
代表者による全体評価と見直し	10

1. 環境方針

基本理念

環境を考えない経済は不経済

経済の発展と持続可能な社会は、エコノミーとエコロジーの調和があってこそ実現するという考え方が、主流となってきています。

環境に配慮しない経済活動は、結果として大きな不利益や、リスクを負うことになります。このかけがえのない、地球号の一員として微力では有りますが、環境保護並びに環境負荷削減と環境への配慮を優先する取り組みを積極的・継続的に行い未来の地球と生物に、優しさと彩りを引き継いでいきたいと願います。

行動指針

1. 二酸化炭素削減として、エネルギー（電気・ガソリン・軽油）の消費量削減に積極的に取り組みます。
2. 事業活動から排出される廃棄物の削減に取り組みます。
3. 水使用量の削減・維持に努めます。
4. 環境配慮型商品の推奨販売を積極的に行い、化学物質使用量の削減と生活者の安全で快適な生活環境（学校・病院・住宅の居室等）の向上を考慮した営業を展開していきます。
5. グリーン化商品の購入拡販を推進します。
6. 環境関連法規を遵守します。
7. 社員各人が、「環境問題」に関する意識を高め、環境保全活動を継続的に取り組みます。

福岡県北九州市若松区原町4-28

株式会社 日東商会

代表取締役 中村 真理子

2011年5月31日改定

2. 会社の概要

【事業所名】 株式会社日東商会
【代表者】 代表取締役 中村真理子
【設立】 1963年11月
【創業】 1951年4月
【資本金】 10,000千円
【所在地】 〒808-0016 福岡県北九州市若松区原町4番28号 (事務所・倉庫)
〒808-0022 福岡県北九州市若松区安瀬64-160 (倉庫)
TEL 093-751-5523
FAX 093-771-7372
E-mail : m.nakamura@nitto-pa.co.jp
URL : <http://www.nitto-pa.co.jp>

【業務内容】 塗料全般（重防蝕・橋梁・船舶・建築・吹付材等）の販売
塗装に関する副資材及び機器・機具の販売

【事業年度】 6月～翌年5月

【環境管理責任者】 取締役 梶岐賢一
連絡先 TEL 093-751-5523
FAX 093-771-7372
E-mail : nitto-iki-pa@aioros.ocn.ne.jp

【事業の規模】

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
主要製品販売量	t	400	377	349
売上高	百万円	323	373	327
従業員	人	10	10	10
床面積	m ²	460	460	460
事務所	(m ²)	132	132	132
原町倉庫+安瀬倉庫	(m ²)	328	328	328
敷地面積	(m ²)	1913	1913	1913

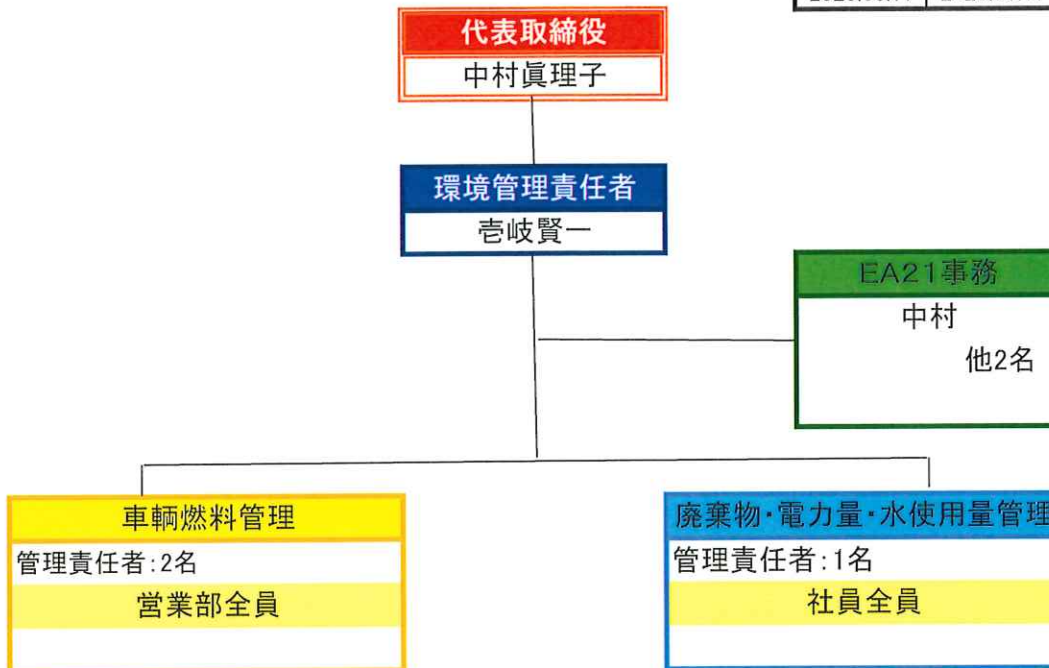
【事業の沿革】 当社は、昭和26年本町三丁目に於いて開業、同年4月大日本塗料株式会社の特約店となり、昭和38年11月 株式会社日東商会に組織を変更し、平成5年3月に日本ペイント株式会社の販売店契約を結び現在に至っています

【認証・登録範囲】 全組織・全活動・全従業員

2023年6月17日

EA21実施体制図

確 認	作 成
中 村	壺 岐
2023.06.17	2023.06.17



役割分担一覧表

氏 名	担 当	役割・責任・権限
中村真理子	代表取締役	全体統括、環境経営方針の設定、環境への取り組み実施する為の資源の準備、全体の評価と見直し
壺岐賢一	環境管理責任者	全体の把握、環境経営システムを構築、運用してその状況を社長に報告する
中村他2名	事務管理責任者	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
管理者2名 営業部全員	車両使用燃料責任者	車燃料(ガソリン・軽油)の消費量管理 営業車の燃費(各車)管理
管理者1名全社員	廃棄物 電力・水量 管理責任者	廃棄物の排出量管理 電力・水消費量の管理

3. 当年度及び中期の環境経営目標

目 標		単 位	22年度実績	23年度目標	24年度目標	25年度目標
・二酸化炭素排出量削減		総量 (k g-CO ₂)	20,924.24	21,655	21,655	21,655
	電気使用量の削減	総量 (k g-CO ₂)	1,780.50	2,100	2,100	2,100
	ガソリン使用量の削減	総量 (k g-CO ₂)	9,964.43	9,900	9,900	9,900
	軽油使用量の削減	総量 (k g-CO ₂)	9,179.31	9,655	9,655	9,655
・廃棄物総排出量削減		リサイクル率	78.2%	77%	77%	77%
・環境に配慮した商品の拡販		%	100%	100%	100%	100%
・	化学物質の適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
・グリーン化商品購入		1冊 (500枚)	100% (90冊)	100% (90冊)	100% (90冊)	100% (90冊)
・水資源の削減		m ³	184	節水に努める	節水に努める	節水に努める

・電力の排出係数は、2021年度二酸化炭素調整後排出係数0.382（九電）を用いている。

・目標設定は 前年度実績及び推移表Aをもとに 今期の営業状況を加味して決定している。

4. 当年度の環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

【電気使用量の削減】

- ・エアコンの設定温度を決め、実行する。
- ・クールビズ、ウォームビズに努める。
- ・ブラインドの利用により熱の出入りを調整する。
- ・蛍光灯のスイッチはこまめに切る（不在時）
- ・昼休み時の消灯を実行する（事務所1F、2F、倉庫）
- ・窓用省エネフィルムを施工（事務所2F）

【ガソリン使用量の削減】 【軽油使用量の削減】

- ・営業車、配送車の燃費の向上を図る（行先、荷物多少に依り車種選択・有料道の利用を考慮）
- ・荷物の積み下ろし時にエンジンを切る。
- ・急発進、急加速、急ブレーキを考慮して運転する。
- ・運転マナーの向上、運転技術の向上を図り、省エネに努める。
- ・2台目エコカー導入

2. 廃棄物は排出量の削減 （リサイクル実施率77%以上）

【事業用一般ごみの削減】

- ・排出量を把握して、量削減の意識の向上を図る。

【古紙のリサイクル】

- ・新聞・段ボール・その他のリサイクル化を促進する。
- ・プラスチック類のリサイクル化を促進する。

3. 環境に配慮した商品拡販

【環境適応商品の販売】

- ・環境適応商品の教育・勉強会を行い、スキルアップして拡販に寄与する。
- ・生活環境の向上を配慮した商品のアピールを推進し拡販していく。
- ・強溶剤塗料から弱溶剤塗料・水性塗料・エコ塗料使用への推進をし、化学物質使用量の削減へとつなげていく。

4. 水使用量の削減

【節 水】

- ・トイレ用水の節水として節水こまをつける。
- ・洗車時の節水としてバケツに水を汲み手洗いで仕上る。
- ・ミネラルウォーターサーバーを使用し、麦茶と併用する。

5. グリーン化商品購入

- ・再生紙等を購入する。
- ・「グリーン購入法」適合商品（塗料）の拡販に努める

5. 環境経営目標の実績

目 標	単 位	22年度実績	23年度目標	23年度実績	目標達成率
・二酸化炭素排出量削減	総量 (kg-CO ₂)	20,924.24	21,655	20,330.25	106.5%
電気使用量の削減	総量 (kg-CO ₂)	1,780.50	2,100	1,647.18	127.5%
ガソリン使用量の削減	総量 (kg-CO ₂)	9,964.43	9,900	8,976.74	110.3%
軽油使用量の削減	総量 (kg-CO ₂)	9,179.31	9,655	9,706.33	99.5%
・廃棄物総排出量削減	リサイクル率	78.2%	77%	79.0%	101.6%
・環境に配慮した商品の提案・拡販	%	100%	100%	100%	100%
・化学物質の適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
・グリーン化商品購入	1冊 (500枚)	100% (90冊)	100% (90冊)	100% (75冊)	100.0%
・水資源の削減	m ³	184	節水に努める	157	節水に努める

※2022年度は2021年度の二酸化炭素調整後排出係数0.382を用いた。

- ・目標設定は 前年度実績及び推移表Aをもとに 今期の営業状況を加味して決定している。

6. 環境経営取組結果の評価

第1.、第2.、第3.、第4四半期を通して、二酸化炭素排出量削減目標に対し、電気が127.5%達成、ガソリンが110.3%達成、軽油が99.5%、総量で106.5%達成となりました。

電気・ガソリン・軽油は、共に減少し、取組の成果が出ています。また、太陽光発電を2017年2月より導入。売電により二酸化炭素排出量削減に努めています。

実施体制 各担当で毎日監視・測定し、3ヶ月毎にEA-21事務局で達成状況を確認評価。

環境管理責任者は代表者に報告。

① 電気使用量削減【目標達成率127.5%】（全社）

- ・地球規模の異常気象で暑さ・寒さ等季節の気候変動が激しく、当年度のエアコン使用量は減少しました。クールビズ・ウォームビズ等の対処、又、節電意識の浸透・活動により、目標達成しました。
- ・今後も、こまめな対応で維持に努めると共に、今年度も 天気の良い日は夕方近くまで消灯し（2F）ショールーム（1F）は常時消灯に努めました。
- ・昼休み時の事務所・倉庫の消灯に努めました。
- ・エアコンの設定温度（暖房22℃～24℃）（冷房26℃～28℃）の徹底実行、ショールーム（1F）エアコンスイッチをOFFにし、事務所（2F）は天気の良い日中OFFにし、省エネフィルム・ブラインドを、有効利用し、短時間運転に努めました。

② ガソリン・軽油の使用量削減【目標達成率110.3%、99.5%】（営業部）

- ・運転経路、積荷多少等を考慮して、効率の良い配送に努めガソリンと軽油は今期を通して目標を達成し、ガソリンは目標達成率110.3%、軽油は目標達成率99.5%となりました。
- ・運転時の安全に努め、緊急事態の訓練を実施し、定期的な車両点検の徹底、運転マナー・運転技術の向上を図り燃費の向上・省エネに努めました。
- ・ガソリンについては、5年前の2台目エコカー導入と運送の減少により使用量削減となりました。
- ・軽油については2台車両入替したにもかかわらず、僅かに未達となりました。

③ 廃棄物総排出量削減（リサイクル実施率79.0%）【目標達成率101.6%】（全社）

- ・リサイクル実施率については、前期同様プラスチック類のリサイクルにも努め、リサイクル率78.2%、目標達成率101.6%となりました。
- ・今後もエコアクション21に取り組むことによる各自の意識向上、社内使用済コピー用紙再利用段ボール・プラスチック等のリサイクルをより細やかに分別し、ゴミ削減に努めます。

④ 環境に配慮した商品の拡販（営業部）

- ・身近な環境問題として、シックハウス症候群・環境ホルモン・ホルムアルデヒド・VOC等が取り上げられる様になり、塗料メーカーも商品をエコ仕様に切り替え、拡販する上にも有効になっております。 又、自然塗料の拡販にも努めました。
- ・二酸化炭素削減にもつながる遮熱塗料も各メーカーより販売され、拡販・アピールに努めております。

⑤ 節水（全社）

- ・洗車時はバケツに水を汲み手洗いで仕上げ節水に努めました。
- ・水洗トイレに節水こまを取付け使用量を削減。
- ・今期は実績157mと前年を下まわり、今後も維持節水に努めてまいります。

⑥ グリーン化商品購入（事務局）

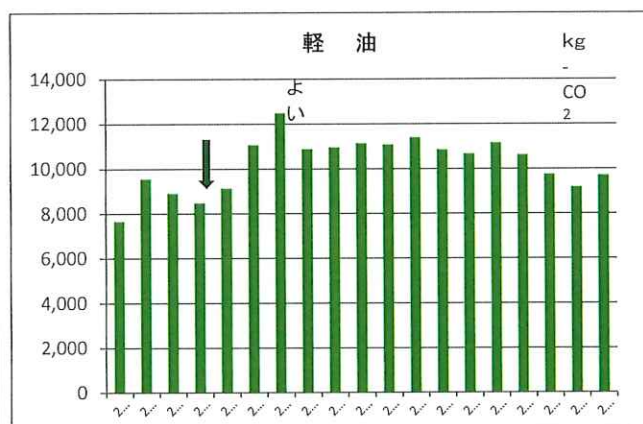
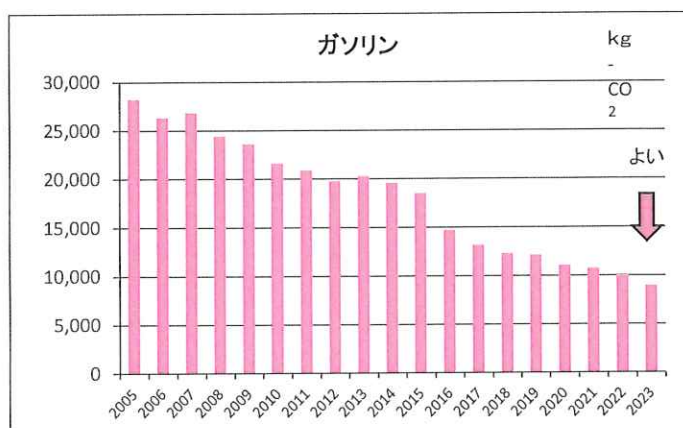
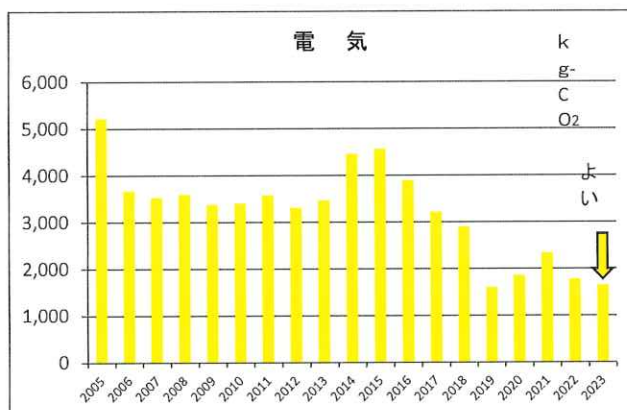
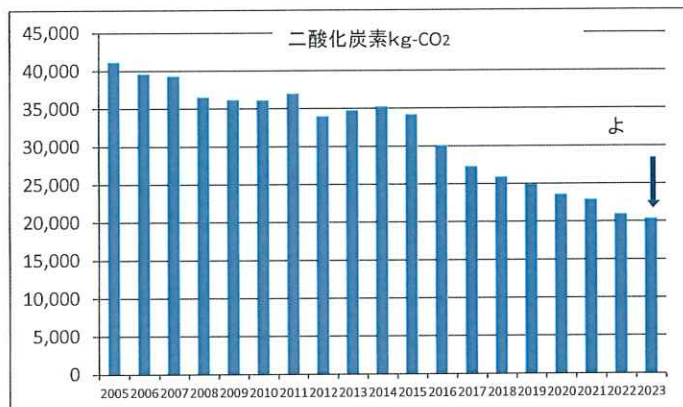
- ・「グリーン購入法」再生紙の使用に努めました。
- ・印刷せずメール・FAX利用により、使用紙の減少に努めます。

7. 取組前（2005年）から取組後（2006年-2023年）の実績表

二酸化炭素排出量推移表 A

単位 総量 (k g-CO₂)

実 績	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
二酸化炭素総排出量	41,146	39,586	39,279	36,514	36,166	36,120	36,964	33,962	34,735	35,198	34,167	30,039	27,270	25,912
電 気	5,219	3,678	3,537	3,601	3,383	3,413	3,584	3,315	3,473	4,464	4,572	3,896	3,221	2,903
ガソリン	28,272	26,361	26,838	24,436	23,645	21,637	20,907	19,772	20,309	19,588	18,522	14,744	13,189	12,340
軽 油	7,655	9,547	8,903	8,477	9,136	11,069	12,473	10,875	10,953	11,147	11,073	11,399	10,860	10,669
実 績	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
二酸化炭素総排出量	24,905	23,566	22,868	20,924	20,330									
電 気	1,607	1,864	2,344	1,780	1,647									
ガソリン	12,143	11,079	10,771	9,964	8,977									
軽 油	11,155	10,623	9,752	9,179	9,706									

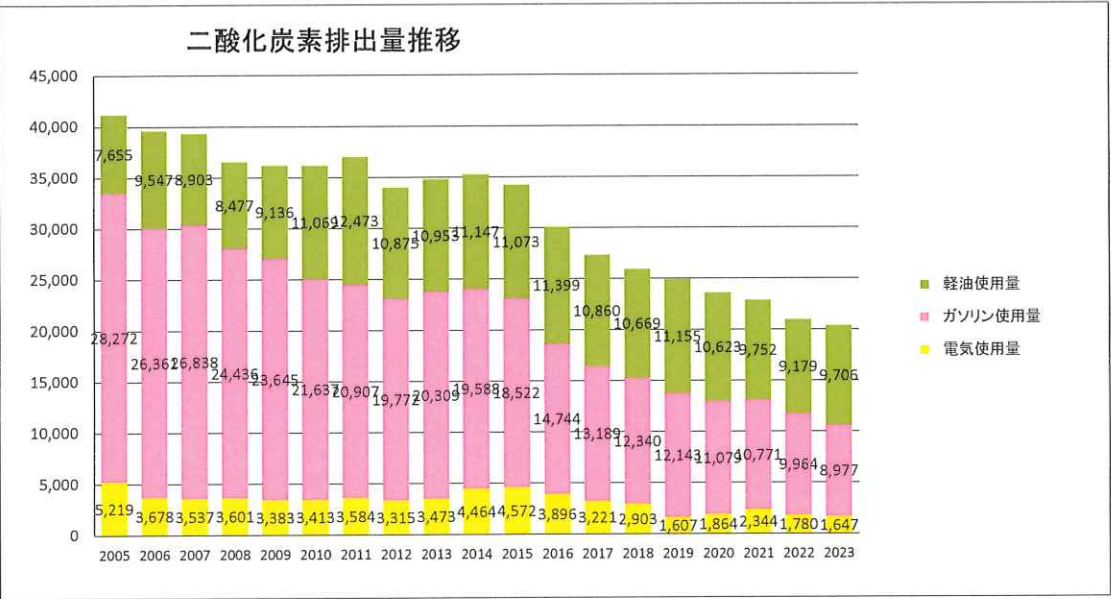


- ・登録時、電気・ガソリン・軽油から排出される二酸化炭素の排出量合計は41,146 k g-CO₂であったが、18年間の運用に於いて20,330 k g-CO₂へと削減され、その累積効果は182,123 k g-CO₂となる。
- 18年間の合計総排出量は、740,628kg-CO₂である。
- 登録時 総排気量41,146の半分程度に減少し、取組の効果は絶大である

二酸化炭素排出量推移表 B

単位 総量 (kg-CO₂)

実績	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
電気使用量	5,219	3,678	3,537	3,601	3,383	3,413	3,584	3,315	3,473	4,464	4,572	3,896	3,221	2,903
ガソリン使用量	28,272	26,361	26,838	24,436	23,645	21,637	20,907	19,772	20,309	19,588	18,522	14,744	13,189	12,340
軽油使用量	7,655	9,547	8,903	8,477	9,136	11,069	12,473	10,875	10,953	11,147	11,073	11,399	10,860	10,669
実績	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
電気使用量	1,607	1,864	2,344	1,780	1,647									
ガソリン使用量	12,143	11,079	10,771	9,964	8,977									
軽油使用量	11,155	10,623	9,752	9,179	9,706									

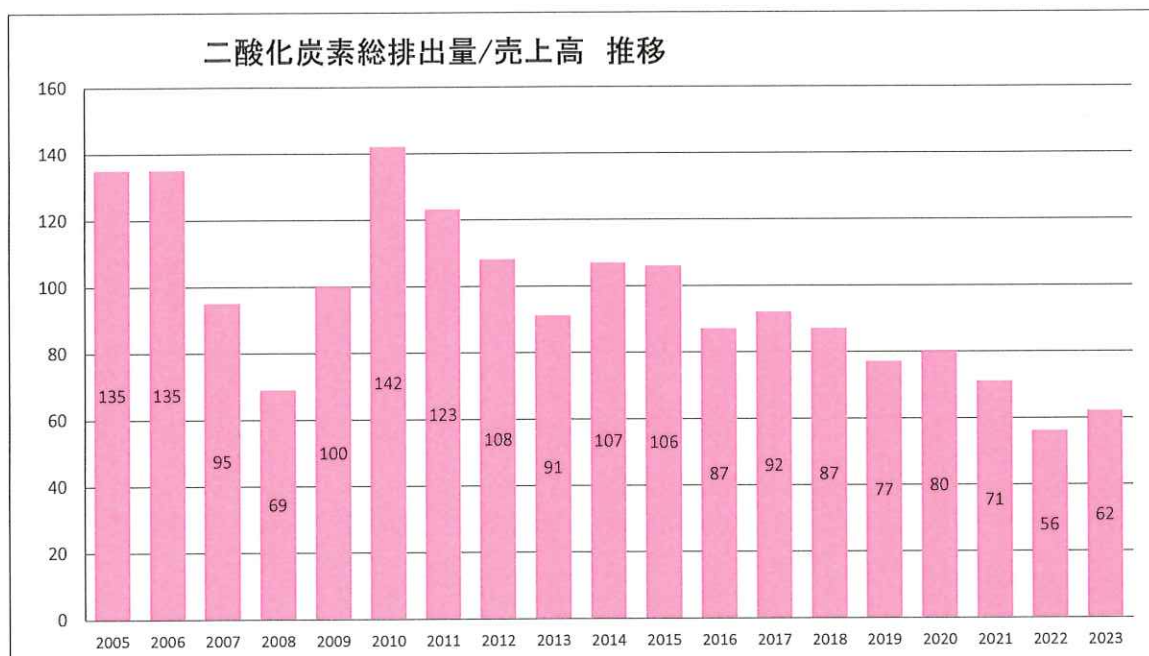


- ・推移表Bよりガソリンの使用量削減及び抑制が読み取れる。
一方、軽油使用量は2010年・2011年から大幅に増え、2021年・2022年度車両入替されたが、2023年度僅かに増えた。
- ・電気使用量に関してはKWベースでの使用量は削減及び抑制ができており、太陽光発電に。
電気使用量の減少効果もある。
- ・今年度はガソリン・電気の二酸化炭素排出量が目標を上回り、
ガソリンは2台のエコカーにより目標を大幅に上回っている。
その結果二酸化炭素総排出量削減も目標を6.5%上回り達成できた。

二酸化炭素排出量推移表 C

単位 総量 (kg-CO₂)、売上高 (百万円単位)

実 績	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
二酸化炭素総排出量	41,146	39,586	39,279	36,514	36,166	36,120	36,964	33,962	34,735	35,198	34,167	30,039	27,270	25,912
売上高	304	294	415	526	362	255	300	315	381	329	321	347	296	299
総排出量/売上高	135	135	95	69	100	142	123	108	91	107	106	87	92	87
実 績	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
二酸化炭素総排出量	24,905	23,567	22,868	20,924	20,330									
売上高	323	295	323	373	327									
総排出量/売上高	77	80	71	56	62									



- ・売上高3億円の2005年度・2006年度と2011年度・2012年度・2017年度・2018年度・2020年度を比較すると、明らかに二酸化炭素総排出量削減効果がみられる。
- 又、2021年度総排出量/売上高も71となり、当初2005年、2006年の135と比べてほぼ半減している。
- 更に、2022年度・2023年度は、商品販売単価の価格改定により出荷量が減少したにもかかわらず売上は増加となり、総排出量/売上高は、56・62へと大幅に改善され、EA21の取組が功を奏している。

8・次年度の取組と課題（環境経営目標及び環境経営計画）

- ・前々年度の課題であった総量（kg-CO₂）/百万円単位の環境経営目標設定をした場合の推移表を作成した結果、C表の通りエコアクション21の取組成果が出ていることがわかります。
- ・2023年度の削減目標達成率がアップしていますが、これは近距離配送の増加と2台のエコカー導入・車両入替によると考えられます。
又、電気の目標達成率の大幅なアップは6年前に導入した太陽光発電と日頃の取組の成果が現れています。
- ・次年度もPDCAサイクルをまわしながら削減取組の継続を実行していきます。

9．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・当社に適用される環境関連法規等(廃棄物処理法、消防法、毒劇物法、フロン排出抑制法)の遵守状況を社内でチェック結果、違反事項はありませんでした。
- ・また、関係機関等及び住民からの指摘、苦情、訴訟もありませんでした。
さらに、関係当局よりの違反等の指摘は、ありませんでした。

10．代表者による全体の取組状況の評価及び見直し・指示

- ・システムを18年間運用し、当初の取組より17年間で二酸化炭素排出量の削減は累計総量182.123kg-CO₂となりました。
また、別の取組として太陽光発電導入により売電し、23年度6-5月で1751kg-CO₂の削減となりました。
今後さらに活動を行い負荷削減に努めます。
- ・又、本システムの趣旨、目的を全従業員が理解し、共有し取組んできた結果、社内的にも環境整備され、社外的にも信用を得てきました。
- ・経営環境も厳しい中ではありますが、PDCAサイクルを回し、環境経営システムの継続の有効性を再認識していきます。
- ・2台のエコカー導入・車両入替による取組成果でコスト削減ができています。
- ・環境経営方針、環境経営目標及環境経営計画の実施体制継続を指示します。